

(別紙4-1)(ユニット2)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175900083		
法人名	社会福祉法人 清光園		
事業所名	グループホームまどか		
所在地	北海道夕張市清水沢宮前町22番地		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2017 02 2 kani=true&JigvoCsvoCd=0175900083-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが			2 家族の2/3くらいと	
			3 利用者の1/3くらいが			3 家族の1/3くらいと	
			4 ほとんどつかんでいない			4 ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			2 数日に1回程度	
			3 たまにある			3 たまに	
			4 ほとんどない			4 ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			2 少しずつ増えている	
			3 利用者の1/3くらいが			3 あまり増えていない	
			4 ほとんどいない			4 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが			2 職員の2/3くらいが	
			3 利用者の1/3くらいが			3 職員の1/3くらいが	
			4 ほとんどいない			4 ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが			2 利用者の2/3くらいが	
			3 利用者の1/3くらいが			3 利用者の1/3くらいが	
			4 ほとんどいない			4 ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが			2 家族等の2/3くらいが	
			3 利用者の1/3くらいが			3 家族等の1/3くらいが	
			4 ほとんどいない			4 ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

株式会社

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念研修を行っており、職員との話し合いの際に各自の取り組みについて共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報誌の確認を行い、自施設周辺だけでなく、セーフティコールなど各地区の催しに積極的に参加している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して各利用者への対応を発表することで支援方法などを発信している。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの活動の様子を行事への参加だけでなく日常生活風景も報告し意見感想を頂き次回への報告へ繋げている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な書類の提出の際など、介護保険課窓口にて書類提出だけではなく、日常の取り組み状況の報告を行っている。		
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の他、職員間で情報の共有を図りながら理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて職員間の情報の共有を図るとともに、事例を挙げてユニット会議などで互いのケアについての確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部や内部研修にて学びを深めている。居宅ケアマネージャーや地域包括と連携し成年後見人制度利用者の入居の形につながっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にご本人、ご家族へ説明を行い、要望や不安に関しての聞き取りを行い重ねての説明ができるように対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やお電話の際にはご本人の様子やケア内容についてお伝えするとともに要望等を伺い、内容を業務日誌やユニット会議にて情報の共有を図り対応できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を通して職員へ内容を発信し意見を求めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、人事考課を行い、良い点、改善点を明らかにし、日々のコミュニケーションを通じ働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月必要な内部研修を実施、ユニット会議やサービス担当者会議でもケアについての指導や話し合いを行なっている。 また必要なマニュアルの作成、実際の現場での指導も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協会の研修や情報交換会への参加や市内の複数事業連携研修や地域ケア会議に参加し、ネットワーク作りをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報を収集し、職員間で情報の共有を行っている。また各職員がかかわりの中で収集した情報も日々のミーティングの中で共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や居宅ケアマネージャーや入院先の病院から等事前に情報収集し、入居時に対応できるようにしている。また、面会時や電話時にもご本人の状況やケア内容についてお伝えする中で関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やご本人や家族とのやり取りの中でサービス内容について検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前情報をもとに各職員がかかわりの中で得た情報をケース記録や日々のミーティングの中で情報共有し、ご本人のできることと、できないことを見極めて支援できるようにまた一緒に行うように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際にご本人の状況報告を行うと共にケア内容をお伝えし、情報共有し確認や今後のケアについて検討している。しかし管理者以外の職員ではご家族との関わりはまだまだ少なく、今後の課題。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用していた美容室や地域のお店に買い物に出かけるなどの支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人同士の関わり合いの中での関係性を見極め、職員が一緒に会話に入ることによって橋渡し役になりながらの関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養への転居の機会もあり、職員は転居後も面会に行くなどの関わり合いを持っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各職員間で得られた情報をケース記録や、その日勤務している職員間で情報共有し、対応できるように努めている。しかし不足しているものも多く、情報共有しきれておらず、個々の職員の情報になっているものも多いため改善が必要		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をもとに、入居後の生活を支えられるように支援している。不足している部分は入居後各職員が関わり合いの中で情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前情報をもとにケース記録にて本人の言動の把握しケアに反映できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日頃の言動やご家族からの聞き取りによりご本人やご家族の思いをケアプラン内に反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランも一緒に表記し確認しながらの記録を工夫しているが、各職員からも文章を作るのが難しいとの声もあり、内容が十分ではなく課題となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会の一員として暮らす取り組みの中でご近所や近くの郵便局、消防、コンビニなど見守りネットワークを作ったり、地域の子供、障害者、サークル活動グループ、職員OBなどニーズに添って協力していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前利用していた美容室へ出かけてのカットの他、体調によっては訪問カットの対応をして頂いている。交通安全協会に所属していた方が交通安全啓発活動に参加したり、スナック経営、ダンスの先生はスナックへ外出しその人らしい暮らしの継続を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度、基本的に地域の病院への受診と身体的に受診できない方に関しては訪問診療の形をとっている。また毎週訪問看護が入ることで日々の状態についての報告対応を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化時に電話連絡し相談を行うと共に、毎週の訪問看護の際に経過報告を行い対応している。また24時間オンコール体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には電話連絡を行い状態の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご本人、ご家族からご希望の確認をしている。また日々の身体的変化について受診時に医師や訪問看護の際に相談指示を仰ぎながら早期に意見をもらえる関係ができています。看取りに関する研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを整備している。しかし定期的な訓練までは行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を実施している。緊急時には地域の方に協力していただける関係ができています。		
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様に合わせた声がけを心掛けている。排泄に関しては直接的な表現はせずに記号で確認する等の配慮を行っている。しかしその確認自体を職員間で大きな声で行うこともあり課題となっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の際に色や種類の選択の機会を言葉や動作などで行えるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床時間や食事のタイミングなど、その日のご本人のペースに合わせてられるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に色や種類の選択の機会を言葉や動作などで行えるようにしてその人らしい着衣が身に付けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態に合わせての提供を行っている。行事食などでは刻んでしまうと形が分からないものは盛り付けの際に形を整えるなどの配慮を行っている。また食後の食器拭きなどを行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時に食事に関する情報を得て対応している。既往歴や主治医からの指示がある場合には制限や調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の状態に合わせて支援を行っている。訪問歯科医師や衛生士へ相談や助言をもらい、ケアへ繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄確認を行っているがサイクルなどをつかみきれず、パターン把握に努めている。また個々に合わせたパットを検討し使用している。受診時にDrへ内服薬についての相談を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便サイクルの把握と共に服用している現在の種類により必要な水分量の確認や食物繊維の摂取などの対応を行って経過観察をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	受診や行事などで調整を行うこともあるが、ご本人の希望や体調に合わせての入浴となっている。入浴できない時は足浴等の対応をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	暗い方が良い方、豆電球の方が良い方など個々の希望に合わせて居室内の照明の配慮を行なっている。また夜間帯の排泄確認のタイミングや安眠優先を考慮しパットの検討を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の能力に合わせての内服支援を行っている。内服薬の内容に関してはファイルを準備して確認がすぐできるようにしている。内服薬の処方や変更などの場合には効能や副作用について情報共有し観察するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	18	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在食後の食器拭きをして頂いている方はいるが能力を生かした役割とはなっていない。今後他の方にも働きかけていく予定。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に合わせての対応ができるように職員間で調整を行い支援している。ご本人、ご家族の希望に合わせて毎月命日のお参りに自宅に外出するなどの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の状態についての確認を行い、訪問販売でのパンの購入や、地域のお店での購入支援などを行っている。		
51	19	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望に応じて支援している。		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは家具の配置や照明、高さなどに配慮し、水周りなどは特に清潔保持に努めている。玄関ホールを設え、喫煙者が他者に不快な思いをさせずに喫煙できたり、イス、観葉植物や本を設置、季節ごとに設えも替え、外を眺めたり、他者と交流したりユニット以外でくつろげるスペースも提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂の他に窓際など離れた場所にイスとテーブルを準備しておりその時に合わせて選ぶことができるほか、絵や花、本を置くなど過ごすための工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際から、自分の居場所となるように私物の持ち込みを依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在洗面所の鏡等、椅子に座ると見えづらい位置にあり今後の課題。またトイレなどの表示も近くによると視界から外れる位置のため検討中。		